



ライの物語

リレーの選手に
なりたい

【第3弾】

こ
じ
ん
の
ま
は
ら
ひ

「ライ、リレーの選手になりたいんだって。」

「うん、お父さん、そうなんだ。僕、ずいぶん足が早くなってきたんだよ。」

「そうか、そうか。頑張れよ。お父さん、応援してるぞ。」

「うん、僕、頑張る。でも、僕より早い人がまだいるんだよ。その人たちより早く走れるようにならないと、リレーの選手には選ばれないんだ。どうしたら、もっと早く走れるようになれるかな。」

「そうだな・・・、走り込んで足腰の筋肉を鍛えることだな。足が速くなるためには、やっぱり走り込まないと。」

「やっぱり、そうだよ。わかった。じゃ、僕、明日の朝から早起きして、毎日走る練習をするよ。」

「おお、それはすごいな。頑張れよ！！」

~~~~~

「ライ、起きなさい。早起きして、走る練習をするんじゃないのか。」

「う～ん、今日はやめとく。ちょっと昨日寝るの遅かったから・・・」

「そんなこと言って、まだ2日しか走ってないぞ。昨日も寒いからって、走らなかったじゃないか。」

「う～ん、眠いんだよ～。」

「仕方ないなあ、結局、三日坊主か・・・」

~~~~~

「ふわあ～、お父さん、おはよう。」

「ライ、やっと起きてきたな。ここに座りなさい。いい事を教えてあげよう。」

「うん、何？」

「早く走れるようになるために、走り込んで体を鍛えることは大切なことだ。」

「分かってるよ・・・、明日はちゃんと走るって・・・。」

「いや、そういうことじゃないんだ。ちゃんと走りなさい！って、叱っているんじゃないんだよ。」

「えっ、ちがうの。じゃ、なに？」

「今のライにとっては、走る練習のために早起きする以前に、やっておかなく必要のあることがある。そのことをライに教えたいんだ。何だか分かるかな？」

「何だろう。」

「今のライにとっては必要なのは、走りたいと思うことだよ。」

「えっ、なにそれ。ぼく、早く走りたいと思ってるよ。」

「そうだな。確かに、早く走りたいと思っている。でも、人には気持ちの段階があるんだよ。知ってるかな。」

「気持ちの段階？ どういうこと？」

「これは、結構みんな知らない、結果を出す秘訣なんだ。ライには特別教えてあげよう。」

「うん、教えて教えて。」

「ライはリレーの選手になりたいと、思ったよね。
でも、それは、ちょっと『その気』になっただけだ。
『その気』では、リレーの選手にはなれないんだよ。
だって、クラスには他にもリレーの選手になりたいと思っている子はいるだろ。
他の子たちより、一歩先に抜け出すためには、『その気』ではなく、『やる気』にならなきゃだめなんだ。
『その気』になった子は、早起きしてランニングしようとか、ライのように少しは行動に移し始めるだろう。
でも、それだけでは、『その気』どまりだ。
お父さんがいくらライを起こそうとしたって、ライ自身が『やる気』になってなきゃ、結局は二度寝してしまう・・・、そうだろ。」

「うん、確かにそうだ。」

「お父さんが今、ライに伝えたいのは、『やる気』になる・・・ということだ。他の子たちより一歩先に出るためには、『やる気』になることが絶対に必要なんだよ。」

「そうだね。」

「よ～し、やってやるぞ！と、『やる気』になった子は、ちょっとや、そっとじゃ、一度決めた約束事を辞めたりしない。」

「耳が痛いね。」

「そうだろう。」

『やる気』の出し方をまずは教えようか。」

「ううん、大丈夫。ぼくこの間、『やる気でない病』の克服の仕方を勉強したんだ。

『やる気』の出し方は、知っているよ。忘れていただけだ。」

「そうか、それはすごいなあ。じゃ、まずは『やる気』を出して、頑張っごらん。それができたら、その先を教えよう。」

「その先・・・？」

「そうだ、『やる気』の先だ。
キーワードだけは、今、教えておこうか。」

「うん、教えて、教えて。」

「本当にリレーの選手になるためには、『やる気』じゃ足りない。その先は、『本気』だ。『本気』にならなくちゃ、目標を達成することはできない。」

「本気か・・・」

~~~~~

「おっ、ライ、早起きだな。もう走ってきたのか。頑張ってるな。」

「お父さん、おはよう。おとうさんにやる気のポイントを思い出させてもらったおかげで、やる気がどんどん出てきたよ。」

「もう少ししたら、次の段階、『本気』になって、やりたい事をやり遂げるエネルギーについて教えなきゃいけないね。」

「うん、その時はまたお願いね。」

「よし、父さんにまかせとけ。」

「でも、おもしろいね。次の段階に行くためには、ひとつ一つ押さえなくちゃいけないポイントがあるんだね。」

「そうだよ。」

「何かゲームみたいだね。僕が今やってるゲーム、魔法のカギが見つからなくて、次のお城に入れないんだ。」

「おっ、いいところに気がついたな。まさしくそうなんだよ。」

「えっ、どういうこと。」

「人生はゲームと全く同じ・・・ってこと。その時その時、必要なものがちゃんとあるんだよ。その必要なものに気づき、それを手に入れると、次のステージに進める扉が開く様にできているんだ。」

「ホント、ゲームそのまんまだね。」

「そうなんだぞ。でも、このことに気がついて、今、必要なものを気にしている人は、結構いないものなんだ。」

「気にしないでいたら、どうなるの？」

「そのことに気づこうとしなければ、いつまでたっても次のステージへのカギは見つけれず、先には進めないんだ。」

「ふ～ん。」

「カギを見つけなきゃいけない時に、モンスターと戦ってばかりいたら、絶対にカギは手に入らないだろ。」

「そうだね。」

「ふ～ん、人生はゲームとおなじなんだ。」

「そうだよ。まさしく、『人生ゲーム』だな。ゲームと人生は同じ作りになっているから、おもしろいんだ。」

「そうか、だからみんなゲームをするんだね。」

「今は大人だって、ゲームをしているだろ。」

「ホントだね。」

「ゲームは本当に人生の勉強になるよ。  
お父さんはゲームやっちゃダメだって言ったことないだろ。」

「そうだね。」

「母さんにはナイショだけど、お父さんも子どもの頃、ずっとゲームばかり、やっていたんだ。」

「えっ、ホント。」

「ホントさ。お父さん、ゲームの達人なんだぞ。」

「へ～、意外！だって、お父さんがゲームやってるの見たことないよ。」

「やってるさ。もっとおもしろいゲームを」

「えっ、何それ？」

「人生ゲームさ。」

「えっ、ウチにあったっけ？」

「本物の人生ゲームだよ。」

「な～んだ。そういうことか。」

「あっ、バカにしてるな。」

「だって・・・」

「さっき、言ったろ。ゲームと人生は同じだって。」

「あっ、そうだったね。」



「じゃ、僕だってやってるじゃん。」

「そのとおりさ。」

「そうなの・・・、いつの間に。」

「生まれた時にスタートしたんだよ。知らなかったのか？(笑)」

「知らないよ。ちゃんと教えてよ。」

「だから、こうやって教えているじゃないか。(笑) でも、分かったらどうするんだ。」

「もっと真剣にやるよ。」

「おっ、いいところに気がついたぞ。  
さしずめ、村人と話をしているうちに、大事な情報を仕入れて、次のステージに向かうヒントに気がついたって感じだね。」

「えっ、なに？ どういうこと。」

「これまでのライは、いつの間にか始めていた人生ゲームの中で、特にどこに行こうという目的もなく、日々、目の前に起こる事に反応して生きていたわけだ」

「そうか、そう言うことになるんだね。」

「でも、人生がゲームだと思えた瞬間。自分の力でコマを進めたいと思えたんじゃないかな。」

「うん、そう思った。」

「自分の意思でコマを進められることに気がいたら、それならもっと真剣に、コマの進め方を考えようと思ったんじゃないか。」

「うん、そのとおりだ。」

「自分のことだから、真剣になるよな。」

「そりゃ、真剣になるよ。自分の人生、良くしたいもん。」

「じゃあ、実際の人生ゲームのルールを、教えてあげよう。」

「そんなのあるの？」

「これを知っているのと、知らないのじゃ、ゲームの進め方が全然違ってくる。」

「何なに、教えて、教えて！」

「この実際の人生ゲームには進む道がいくつでもあって、どれを選んでもいい・・・というルールになってるんだよ。」

「えっ、なにそれ、そうなの。そんな自由なの。」

「そうだ。自由で一杯だ。けどこれまでライはそのルールを知らなかったから、周りの人におまかせで進めてもらうモードにしていたんだ。」

「え～、そんなのあり。それこそ、早く教えてよ。」

「実は父さんも大人になるまで、知らなかったんだ。誰も教えてくれなかったからね。自分では、そのことに気がつけなかったんだよ。」

「気がつかないでいると、どうなるの。」

「自分の思うような、コマ運びはできないのさ。行きたくない道、嫌な道ばかり進んでしまったりするんだ。そもそも、どの道に行くのが、自分にとって良いのか、基準を持っていないから、行きたい道かどうかさえ、自分で判断つかないんだけどね。」

「そりゃ、そうだね。」

「父さんはそのことに気がついてから、自分の手で、コマを進めるようにしたんだ。そうしたら、この人生ゲーム、ホントにおもしろくてさ。すっかりテレビゲームとか、しなくなっちゃた・・・って、わけだ。毎日どうコマを進めるか考えていると、上手くいくのがおもしろくて仕方ないんだ。」

「へ～、父さん毎日ゲームをしていたんだね。」

「そうなんだ。ライ、お前も一緒に、自分に良い道選びを考えてみるか。」

「もちろん、考えるよ。これまでやってたテレビゲームは、この人生ゲームの練習だったんだね。」

「そうだ。そのとおり。これまでの練習の成果を見せてやれ。」

「よ～し、どうやって進んで行こうかな。」

「ワクワクするだろ。よ～く、見渡すと、進む道はいくらでもあるからな。」

「お父さん、自分の人生ゲームで、自分が選べる道は、いくらでもあるんだね。」

「そうさ。選び放題だぞ。」

「どの道を選んでもいいのは、うれしいけど、どの道が本当に自分に合っているのか、迷っちゃうね。」

「そこがポイントだ。自分の人生ゲームを、どのように進め、どんなゴールをしたいか、常々考えていないと、どの道が自分に向いているか、なかなか判断がつかないんだよ。」

「ホントだね。なにより、まずどんな道を探したいか、思いつかないよ。」

「そうだろう。それだけ今までは、自分で選んだ道を歩むのではなく、目の前にたまたま現れた道に、進んでいたんだと言うことが、よく分かるだろう。」

「うん、よく分かる。」

「自分が進む道は、今、自分が気がついている道だけじゃない。自分が進みたい道を、探し出すことも必要だし、道なき道を作り出すことも、時には必要だ。」

「う～ん、結構、難しいそうだね。」

「難しいと言えば、難しい。でも、この人生ゲームには、コツがあるんだ。それを知れば、そんな難しいことでもないぞ。」

「また～、そんな裏技ばっかりだね。」

「ゲームに裏技は基本だろう。それをいかに上手に見つけて、攻略するか・・・、そこがゲームのおもしろさじゃないか。」

「そりゃ、そうかもしれないけど、攻略本とかないの？お父さんばっかり知ってて、ずるいよ。」

「そんなことはないよ。このコツは、知っている人はみんな知ってる。そして、知っている人は、ちゃんとそのコツを活かして、自分のコマを思い通りに進めているんだよ。」

「そうなんだ。」

「自分のコマを思い通りに進めている人達がみんな知ってる、この人生ゲームのコツはな・・・」

「コツは・・・なに？」

「『人に聞くこと』だよ。」

「えっ、そんな簡単なこと。」

「そう。簡単だろ。でも、これがどうして・・・、難しかったりするんだよ。」

「え～、そうなの。聞くだけでしょ。」

「そう言うけど、ライはどうだい？  
できないことがあったら、人に聞くかい？」

「そうだな。聞きにくい時もあるな。」

「そうだろ。結構みんな人に聞くことをしてないんだよ。  
恥ずかしいのもあるかもしれないし、人に聞いちゃいけないと思っているんだね。」

「聞いちゃいけない？ どうして？」

「テスト中に答えを人に聞いちゃいけないだろ。答えは自分で見つけるように、学校では教わるからな。みんな人に聞くのは、良くないことだと、心の底で思っているんだよ。」

「確かに、そうかも。やっぱり自分でできなきゃ、ダメでしょ。」

「自分でできることと、人に聞くことは同じことなんだぞ。」

「うん？ どういうこと。」

「だって、人に聞くかどうかは、ライがやろうと心に決めるから、人に聞くんじゃないか。人に聞かない人は、やろうとしないわけだろ。だから、人に聞くかどうかは、その人次第と言うことで、その人の実力じゃないか。」

「たしかに。そうも言えるね。」

「大人になったら、会社で仕事をするだろ。会社ではみんなで協力して、相談して物事を決めるんだぞ。だから、『人の意見を聞く』というのは、とっても大切なことなんだ。」

「そうなんだね。テストもみんなで相談できたら、いいのになあ。」

「ハッハッハ。そうだな。」

「ねえ、父さん、この人生ゲームの裏技って、他にもあるの？」

「もちろん、たくさんあるさ。いろいろと探してごらん。どんどん、人生ゲームが、おもしろくなるからな。」

~~~~~

赤リボン

「今回はおれの出番はなかったなあ。ふてくされてやる。

おれはやり貝だ。貝らしく、貝の中に引きこもってやれ。」

おしまい。 チャンチャン。

【作者からのメッセージ】

この物語で様々な気づきを得て、自分なりに日常生活に活かしていただけたら、大変うれしく思います。この物語を読んだ方々が少しでも気持ちが穏やかになり、争いのない世界をみんなで作っていただけることを願っています。

全世界のできるだけ大勢の人達に読んで欲しいと思っていますので、コピー、配布に対する制限は一切ありません。どうぞ、ご家族、お友達にプレゼントしてあげてください。

絵 / みかん

・ ・ ○ オフィス ・ ミナコ ○ ・ ・

みかんの似顔絵名刺屋さん☆

PC→ <http://mikan-o.sakura.ne.jp/>

携帯→ <http://mikan.mobi>

小熊 ミナコ oguma minako

作 / じーこ

・ ・ 歯と心と人生の専門家 ・ ・

人生ドクター 澤田 宏二

Sawada Koji

リアルアイセミナー <http://jicolize.com/>

総入れ歯ドットコム <http://www.souireba.com/>

見えないやり方の使い方

